

私達は何のために学ぶのか

先日、札幌市内にあるH高校の先生から、1年生の皆さんが「自分たちは何故学ぶのか」についてグループ討議した成果（プレゼンテーション資料）をお送りいただきました。

「何のために学ぶのか」というという問いは、実は「何のために生きるのか」と同じくらい根源的で難しいテーマだと思っています。なぜなら、人によって考え方は様々であり、明快な答えというものがあるようには思えないからです。

今回送っていただいた「プレゼンテーション成果集」は、1年生の生徒を20のグループに分け、それぞれ討議した結果をまとめたものです。H高校は、かつて指導困難校と称されていた学校ですが、成果集からは、生徒の皆さんが真面目に、しっかりと議論した様子が伺え、とても嬉しく思っています。

「将来輝いた人生を送りたい」「将来幸せな人生を送りたい」「立派な社会人になりたい」更には、「やりたいことができる自分になりたい」等々表現は様々ですが、H高校の生徒達は、未来に向かって進もうとし、進むためには勉強する必要があると考えていることは確かなようです。

ただ、人間というものは弱い存在ですから、目的もなしに漠然と勉強を続けていくことは難しいことです。勿論、中には、学ぶことの魅力に目覚め、学ぶこと自体を目的とするような人がいないとは限りません。しかし、私は、学ぶという行為にも何らかの動機や目的が必要なのではないかと思っています。つまり、「将来のために勉強する」という気持ちはとても大事なことです。何をどう勉強するかということになると、自分の将来をどう考えるか、どのような将来の姿を設計していくかということと切り離しては考えられません。

かつて、チベット歌手のバイマー・ヤンジンさん（国籍は、日本です。）から「チベットでは識字率が低いために、薬の名前を間違えて服用し、死亡に至るケースも少なくない。チベットでは、学ぶことは命に直結する重要なこと。

だから、チベットに学校を作る活動をしている。」というお話をお聞きしたことがあります。私は、この時、学ぶということに非常なリアリティを感じたことを覚えています。

幸いなことに、日本は識字率が高いですからチベットのようなことはありませんが、「何のために学ぶのか」ということになると急にリアリティが希薄になってしまう、それは、自分の将来を描きにくくなっていることと無縁ではないように思います。

平成の時代に入り、バブル経済も弾け、就職難、格差拡大、年金制度の破綻といった社会状況の中で、展望を見いだせず、努力しても報われないという思いに囚われている若者も多いと思われます。勉強してもしなくても大した違いがない、と考えれば、誰も真面目に勉強しようとはしないでしょう。

それだけに、H高校の生徒達が「何のために学ぶのか」について考え、自分なりの答えを見つけたことは意味があります。今後は、更に「何をどう学ぶか」という、より具体的で明確な目標へと深化させて欲しいと思います。

また、生徒達の将来と直結していくキャリア教育については、「学び」の観点からもその重要性はますます高まっており、各学校での一層の取り組みを期待しています。(塾頭 吉田 洋一)